

戦略的創造研究推進事業
(社会技術研究開発)
令和4年度研究開発実施報告書

科学技術イノベーション政策のための科学
研究開発プログラム

「政策形成過程における科学的知見の活用最大化のため
の中間人材の可能性について ―成育医療・母子保健
領域を事例とした分析と実証―」

研究代表者 千先園子
国立成育医療研究センター
こどもシンクタンク企画調整室 副室長／
こころの診療部 医員

目次

1. 研究開発プロジェクト名	2
2. 研究開発実施の具体的内容	2
2 - 1. 研究開発目標	2
2 - 2. 実施内容・結果	3
2 - 3. 会議等の活動	21
3. 研究開発成果の活用・展開に向けた状況	21
4. 研究開発実施体制	22
5. 研究開発実施者	23
6. 研究開発成果の発表・発信状況、アウトリーチ活動など	23
6 - 1. シンポジウム等	23
6 - 2. 社会に向けた情報発信状況、アウトリーチ活動など	23
6 - 3. 論文発表	24
6 - 4. 口頭発表（国際学会発表及び主要な国内学会発表）	24
6 - 5. 新聞／TV報道・投稿、受賞等	24
6 - 6. 知財出願	24

1. 研究開発プロジェクト名

政策形成過程における科学的知見の活用最大化のための中間人材の可能性について
—成育医療・母子保健領域を事例とした分析と実証—

2. 研究開発実施の具体的内容

2 - 1. 研究開発目標

アウトプット

- こども政策における EBPM サイクルの全体像と顕在化していない促進・阻害因子を同定する。
- 各ステークホルダーの相互理解を深める研修資材「EBPM 推進資材①」を開発する
- 「EBPM 推進資材①」を各ステークホルダーに活用してもらう
- 政策担当者と研究者の間のギャップの認識と両者の連携・コミュニケーションを推進するための介入策を検討する。
- 「研究者」「技官」向けの相互理解を深める研修資材「EBPM 推進資材②」を開発する
- 「EBPM 推進資材②」を活用してもらう。
- 「EBPM 推進資材①②」に対して多様な関与者からフィードバックをえて、評価を行う。
- 中間人材の実態・ニーズを把握し、EBPM 推進のための改善点を提言する
- 中間人材の育成支援のための「中間人材支援パッケージ」を開発する
- 「中間人材支援パッケージ」を、中間人材候補に活用してもらい、質問票調査によるパッケージ使用前後の評価を行う。
- 中間人材の経験者や現職の政策立案者などのネットワークを構築する。
- 政策実装の好事例や促進因子について検討する。

アウトカム

- 開発した「EBPM 推進資材①②」「中間人材支援パッケージ」が活用され、EBPM サイクルの推進に貢献する。
- 中間人材の支援・活用に向けたポイントが明らかになり、より有効な支援・活用方法が促進される。

2 - 2. 実施内容・結果

(1) スケジュール

研究開発の実施項目	2022年度		2023年度				2024年度				2025年度			
	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
研究課題①														
各ステークホルダーのヒアリング														
EBPM サイクル全体像に関する「EBPM 推進資材①」の開発														
EBPM サイクル全体像に関する「EBPM 推進資材①」の活用と評価														
研究課題②														
研究者—技官協働のための文献検索および事例調査														
研究者—技官協働のための「EBPM 推進資材②」の開発														
研究者—技官協働のための「EBPM 推進資材②」の活用と評価														
「EBPM 推進資材①②」の普及と社会実装														
研究課題③														
中間人材のヒアリング														
中間人材の好事例検証														
「中間人材支援パッケージ」の開発														
「中間人材支援パッケージ」の試行/評価														
「中間人材パッケージ」の普及・社会実装														
研究課題④														
実装の好事例検証														
実装の介入策の提言														

当初の計画からの変更点

- 研究課題③について、中間人材へのインタビュー調査を課題①のEBPMサイクル全体のヒアリング結果を踏まえて設計する予定に変更し、2023年10月頃の開始を予定している。

(2) 各実施内容

当該年度の到達点① こども政策における EBPM サイクルの全体像と顕在化していない促進・阻害因子に関する質的調査としてデータ収集を行う（研究課題①）

実施項目①-1 各ステークホルダーを対象とした質的調査

実施内容

対象者：こども政策領域の「中間人材（15名）」、関係省庁の「政策担当者（10名）」、厚労科研の代表者などの「研究者（10名）」、社会実装を担う「自治体政策担当者（5名）」、「民間事業者（5名）」

実施方法：1対1の半構造化面接（対面もしくはWeb）によるデータ収集。得られたデータは要約的内容分析による文脈単位の分析と、テキストマイニングによる単語単位の分析を通じ、要点の抽出を試みる。分析結果については対象者と共有し、解釈および認識に大きな齟齬がないことを確認する。

主な調査項目：EBPMの実現に向けた各ステークホルダーの役割認識と現状、他のステークホルダーに対する期待（政策担当者が研究者に期待すること等）、EBPMの実現における促進・阻害因子

研究の進め方：1～2年目に質的調査の実施とその分析をおこなう。

期間：令和4年10月～令和5年3月31日

実施者：千先園子（国立成育医療研究センター医員）竹原健二（国立成育医療研究センター部長）友利久哉（国立成育医療研究センター次長）

当該年度の到達点② 政策担当者と研究者の間のギャップの認識と両者の連携・コミュニケーションを推進するための情報収集を行う。（研究課題②）

実施項目②-1 文献検索と事例抽出。

実施方法：GoogleやCiNiiなどの検索エンジンや厚労科研データベース、子ども・子育て支援調査研究事業などの報告書の検索を通じ、政策担当者と研究者の連携に関する知見や政府の検討会などの資料を通じて実際に連携がうまくいった事例を抽出し資料を作成する。

期間：令和4年10月～令和5年3月31日

実施者：千先園子（国立成育医療研究センター医員）竹原健二（国立成育医療研究センター部長）友利久哉（国立成育医療研究センター次長）

当該年度の到達点③ 中間人材の実態・ニーズ把握を行う。

実施項目③-1 中間人材の質的調査

対象者：こども政策領域の「中間人材（15名）」および交流人事に関心をもつ医療者・研究者。特に、人事交流などで一定期間技官を務めた研究者や医療者（一定期間の技官経験のみで、研究や臨床により高い専門性をもつ）を中心的な対象として検討する。

実施方法：1対1の半構造化面接（対面もしくはWeb）によるデータ収集。得られたデータ

は要約的内容分析による文脈単位の分析と、テキストマイニングによる単語単位の分析を通じ、要点の抽出を試みる。

主な調査項目： 現在の所属先や活動内容、実際に果たした/果たせなかった役割、現状の人事交流制度の課題や改善点、配置・活用方法について処遇や人事評価などの人事制度面における課題など。調査結果を踏まえて、中間人材の能力や処遇、キャリアパス、インセンティブなど、制度面や組織管理・人事管理の観点から改善すべき点について積極的な提言ができるように、デザインを行う。

期間：令和4年10月～令和5年3月31日

実施者：千先園子（国立成育医療研究センター医員）竹原健二（国立成育医療研究センター部長）友利久哉（国立成育医療研究センター次長）

（3）成果

当該年度の到達点① こども政策におけるEBPMサイクルの全体像と顕在化していない促進・阻害因子に関する質的調査としてデータ収集を行う（研究課題①）

実施項目①-1 各ステークホルダーを対象としたBPMサイクルの促進・阻害因子に関する質的調査

成果： 先行文献およびインタビュー論文を参考にインタビューガイドとフレームワーク等を検討し、インタビュー調査の計画書を作成した。2023年1月国立成育医療研究センターの研究倫理審査委員会に申請を行い承認された。3名を対象に2023年2月8日と2月15日に対面でのパイロット調査を行い、インタビュー方法をブラッシュアップした。現在45名（中間人材(15名)、政策担当者(10名) 研究者(10名) など）に対し、本調査を開始し、データ収集を進めている。

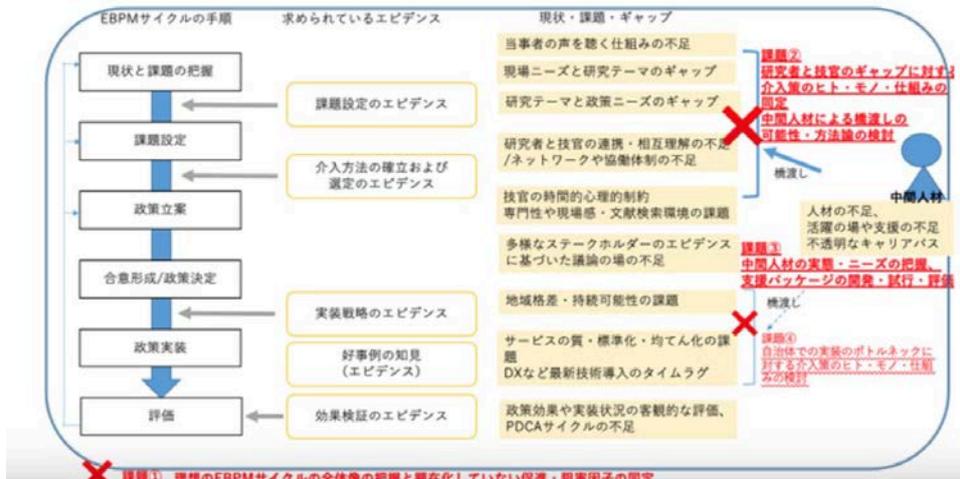


図 1.インタビューガイドの一部

表 1.パイロット調査の結果

研究者／政策立案者／中間人材 促進要因	阻害要因	解決策
① 現状と課題の把握	<p>【研究者】人材不足</p> <p>【研究者】EBPMによる政策の変革可能性についての認識不足と ロールモデル不足</p> <p>【政策立案者】エビデンスの認知不足</p> <p>【研究者】課題設定と政策立案のためのエビデンスが不一致</p> <p>【研究者】行政ニーズの把握不足</p> <p>【研究者】効果的な発信方法についての知識不足</p> <p>【研究者】基礎データが不足・データベースが散在 (例：コロナ禍の心身の影響を評価したくても、平素の状況の把握 が不十分で困難)</p>	<p>【研究者】EBPMへの貢献を評価されるアカデミアの人事制度</p> <p>基礎データの収集とデータベース整備、オープンデータ化</p>
② 課題設定	<p>【政策立案者】政治家の強い圧力</p> <p>【政策立案者】エビデンスより世論重視の政策立案</p> <p>【政策立案者】行政ニーズの背景の提示が不十分</p> <p>【政策立案者】政策担当者による研究者への 十分な説明</p> <p>【中間人材】研究や現場について知識や理解 がある行政官の存在</p>	<p>政策ニーズだけでなく、研究者のニーズもみたせるような課題 の設定（アジェンダセッティングのワークショップ開催など）</p> <p>現場知、専門知がある者の行政官への採用（人事交流の推進）</p>
③ 政策立案		
④ 合意形成	<p>【研究者】検討委員会に選出される委員のエビデンス把握が不十分</p> <p>【研究者】検討委員会での発言内容が主観的な経験に依存</p>	<p>【行政】検討委員へのデータインプットを可能にする仕組みづ くり</p> <p>【行政】検討委員以外からの情報提供を可能にする仕組みづ くり</p>
⑤ 政策実装	<p>【行政】指示出し止まりの政策で、実装方法が不明瞭</p>	<p>自治体などでの実装の好事例の共有、相互参照機会の拡充</p>
⑥ 効果検証	<p>評価の仕組みの不足</p>	<p>第三者機関による働きかけ</p>
⑦ その他	<p>【研究者】EBPM政策過程のトータルプロセスを把握していない</p>	<p>EBPM過程を形式知化して各ステークホルダーに共有する</p>

【結果】

- インタビューによって、「エビデンス」や「EBPM」の定義が多様である可能性が確認された。先行研究で、研究者にとってのエビデンス（学術的なPolicy Evidence）と政策担当者にとってのエビデンス（アカウンタビリティのためのPolicy Reason）の定義が異なることが指摘されており、矛盾しない結果であった。（梶川ら2020）
- EBPMサイクルの全体像が、各ステークホルダーに十分に把握されていない可能性が確認された。

当該年度の到達点② 政策担当者と研究者の間のギャップの認識と両者の連携・コミュニケーションを推進するための情報収集を行う。（研究課題②）

実施項目②-1 文献検索と事例抽出

本研究班では、以下の主に4つの目的で文献のオーバービューを進めている。

- ①EBPMサイクル全体像の把握と阻害／促進要因・解決策の抽出（研究課題①で行っている「こども政策におけるEBPMサイクルの全体像と顕在化していない促進・阻害因子に関する質的調査」の補完）
- ② インタビュー調査（研究課題①②の2種類）のフレームワーク（インタビューガイド）作成に活用
- ③ 中間人材に関する既存の知見の整理（研究課題②）
- ④ 支援パッケージ開発に向けた情報収集（研究課題③）
一連の文献検索と事例抽出を通して、政策担当者と研究者の連携推進に向けた知見を整理することを目指している。

成果①海外文献

【方法】

- ◆ EBPMの阻害要因・促進要因（・解決策）に関する知見を英語文献から整理することを目的に、使用する文献データベースと検索語の検討を進めた。
- ◆ 今回使用した文献データベース：PubMed
- ◆ 予備検索は以下の二通りの方法で行い、すでに知見がまとめられた系統的レビュー（Systematic review）と一次研究（主にインタビュー研究）の収集を試みた。
 - 予備検索式①<系統的レビューの収集>：「Evidence based」「facilitator」「barrier」のキーワードを用い、PubMedの[Systematic Review]フィルターをかけて検索を行った。（2022/11/16時点で215件ヒット）
 - 予備検索式②<インタビュー研究の収集>：「policymaker」「researcher」「partnership/ collaboration」等のキーワードを用いて関連の研究を抽出した。その他、「Evidence based」のキーワードにインタビュー研究の用語を組合わせた検索式なども検討し、関連文献の特定を進めた。

【結果】

- 上記検索により、本研究課題に関連する5件の系統的レビューと、5件のインタビュー論文が特定された。
- 阻害要因としては、研究者側の要因として、【政策プロセスの複雑さ】（研究者が政策プロセスを十分に理解していない；意思決定プロセスの不透明さ；意思決定プロセスの形骸化；頻繁な組織変更）【政治や政策立案者への不信】（政治体制の変化により研究結果が無駄になる；政策立案者の態度；科学的根拠より優先されるものの存在）【政治との距離】（政治は科学者の範疇ではない；深くかかわりすぎる

のは無駄)【政策ニーズとの不一致】(非実用的な研究は取り残される;研究が時流にあっていない;学術雑誌に載るような研究にならない)【研究資金の問題】

(実用的な研究ではなくお金になる研究をする傾向)【時間がない】(普及活動のための時間がない)といった項目が抽出された。政策立案者側の要因として、【政策プロセスの複雑さ】(意思決定プロセスの形骸化)【研究者への不信】(研究結果の妥当性・信頼性への疑問;学術機関による利益の追求;研究の利益相反の可能性;研究機関・研究者の代表性への疑問;研究費の使い道が不明;研究者への偏見;研究に対する政策立案者の貢献が軽視)【政治主導の政策決定】(研究成果の政治的利用の可能性;科学的根拠より優先されるものの存在;研究内容以外の要因による障壁)【政策ニーズからみた研究への不満】(研究結果が出るまでに時間がかかりすぎる;研究は複雑さに対応していない;研究のスコープが合わない;研究の外的妥当性の低さ;実用的な成果・情報の欠如)【知識・リソース不足】(政策立案者が研究の読み方、判断の仕方を知らない;政策立案の人材確保)といった項目が抽出された。また、両者に共通する要因として、【相互理解の欠如】(研究者と政策立案者の相互理解ができていない)【外的要因】(タイミング;コスト;法制度;消費者)が挙げられた。

- 促進要因としては、研究者側の要因として、【研究テーマ設定の工夫】(情報収集;現実世界との関連性;出口を見据えた研究;時流にあった研究;政策立案者のニーズを理解;現行の政策の評価;役に立つ情報源になる)【研究成果の伝え方】(フォーマットの活用;明確な提言を含むサマリー)【政策プロセスへの理解】(政策プロセスを理解する)【研究への信頼性】(研究の質;専門家としての認知)【実用性の向上】(研究手法の開発)が抽出された。政策立案者側の要因としては、【研究結果・研究者の活用】(新しい発想;専門性の活用;エビデンスの活用;状況に応じたエビデンスの適用)【研究結果の利用しやすさ】(アクセス;エビデンス利用の意向;サポート体制)【知識の向上】(研究の方法論に関する理解)【組織体制】(管理職の意向)【政治体制】(政治的なサポート)が抽出された。また両者に共通する要因として、【関係性・協働】(研究者・情報担当者との関係;長期的な連携;エビデンスの共創;協力の意思;幅広いステークホルダー;リスク共有の必要性)【外的要因】(ガイドライン;ポリシー;agencyの活用)が挙げられた。
- 解決策としては、研究者に研究結果の効果的な伝え方を教える、政策立案者に研究参加の重要性を伝える、組織体制や管理職への介入、多機関合同ワークショップやトレーニングの開催、エビデンスや評価ツールへのアクセスの促進、に関する取り組みが紹介されていた。
- 以上、検索の結果を踏まえ、今後、社会科学系の文献など含め幅広く俯瞰するために、使用する文献データベースや検索語をアップデートし、文献からの知見を引き続き検討していく予定である。

表 2. 英語文献のまとめ (阻害因子) ※整理途中

	カテゴリ	コード	項目	出典
研究者	政策プロセスの複雑さ	研究者が政策プロセスを十分に理解していない	"A lot of researchers, especially early career researchers, think that all they have to do is tell the truth and powers will listen and that just doesn't happen."	Gollust2017
			I've seen a lot of academics come in prepared to teach. No, no. This is not a teachable moment, okay? You've got to explain, got to develop credibility, but much more quickly than that. And then you've got to hit the ground with things that legislators can really figure out and understand.	Gollust2017
		意思決定プロセスの不透明さ	it is hard to tell how the health decision-making processes happen, as they are not transparent" (Researcher 1).	Mihalicza2018
		意思決定プロセスの形骸化	"Hungary has always been eminent in putting in place things that look good: this is how decision-making should be done. But the problem that these changes stop on the legislative level. So it is not true that we have no frames to fill with content, the problem rather is that there is not too much ambition to really fill it with content." (Researcher 2	Mihalicza2018
		頻繁な組織変更	"Hungarian experts have a good reputation, and if we are talking about health economists, Hungary has a great expert lineup on a regional level. There are established research groups, but experts within the government are hurtfully needed. Even those [research oriented working groups] that do exist [within the government] suffer from considerable fluctuation that makes the situation really difficult." (Researcher 3)	Mihalicza2018
	政治や政策立案者への不信	政治体制の変化により研究結果が無駄になる	"So honestly my best work was dead in the water within six months because of politics."	Williams2019
		政策立案者の態度	Other participants also felt that policymakers' pre-conceived notions regarding the decision making process and the inclusion of research in that process were major barriers to the use of HSPR in decisionmaking. Some participants felt that "policymakers [think they] know everything"	Ellen2016
			"based on personal preferences and on the basis of subjective understanding of reality, this is the tradition that exists in Israel.	Ellen2016
		科学的根拠より優先されるものの存在	"Well, you know unfortunately a lot of policy makers don't base policy on truth and reason. They base it on ideology and the interests of the powerful people who pay for their campaigns."	Gollust2017
			I think there are a lot of biases, that people approach policy making from the perspective of what seems most accessible, what seems most important to you, based on what your constituents are telling you, based on what's in the media, and it can be very biased	Gollust2017
			"If you're finding something not in line with what they want, they will not even put it out there."	Gollust2017
			"Policy makers really don't care about what the researcher says. They just care about who's paying their bill."	Gollust2017
	政治との距離	政治は科学者の範疇ではない	I would say it's, the political process is . . . it feels like a completely separate world and it's very much out of our control. So the best we can do as researchers is do the best science possible and though we have very little control over how it will be used.	Gollust2017
		深くかわり過ぎるのは時間の無駄	"it might seem like a waste of time to get too closely involved	Gollust2017
	政策ニーズとの不一致	非実用的な研究は取り残される	"I do research so that I can improve health... the main way in which research impacts health is through policy... Research without any sort of policy engagement will often sit on the shelf and do nothing..." Researcher	Williams2019
		研究が時流にあっていない	Lack of timeliness or relevance of research	Innvaer 2002
		学術雑誌に載るような研究にならない	I have a research team of people who are ambitious... In an ideal world they'll be doing projects which are targeting high impact, international journals. The sort of work that we do for government here isn't that sort of work. So, it does come at that cost as well."	Williams2019
	研究資金の問題	実用的な研究ではなくお金になる研究をする傾向	If you're in an academic setting, I think the idea that for tenure, the hurdles that are put up for tenure, they may not be that interested in research that has to do with policy change, they may be more interested in research that brings in big dollars.	Gollust2017
	時間がない	普及活動の時間がない	If you want to do research there's time constraints, so if you're working on dissemination then you're not doing research."	Gollust2017

社会技術研究開発
「科学技術イノベーション政策のための科学研究開発 プログラム」
令和4年度 「政策形成過程における科学的知見の活用最大化のための中間人材の可能性について
—成育医療・母子保健領域を事例とした分析と実証—」
研究開発プロジェクト年次報告書

	カテゴリ	コード	項目	出典
政策立案者 (つづき)	政策ニーズからみた研究への不満	研究結果が出るまでに時間がかかりすぎる	"there is a kind of delay between the decision making and when you get... the evidence sometimes comes too late, so it, at most, confirms the decisions you already made, but many times there is nothing to rely on	Ellen2016
			"Timing of scientific works and policy-making processes, most of the cases, does not concur. Until there isn't a long term strategy driven decision-making process in place, rather decisions are mostly about quick fixes, we can't expect to have a work method where if I want to decide on a certain issue, I judge what evidence I need, I get it, evaluate it, and channel it into decision-making." (Representative of a government agency 1)	Mihalicza2018
			"...they [researcher-initiated partnership projects] can take a long time, longer than you need or have available. So you don't get the answer you want when you want it, you get it eventually, but it may be too late by that point, in which case it's something of a waste of time.	Williams2019
		研究は複雑さに対応していない	"Sometimes they get very narrow in terms of what they get interested in or they need to define things in a very narrow way that means that they can measure it, so it makes it easier for them, but it doesn't necessarily answer the questions that you want. When from our point of view we'll think, they're just not even trying to get how complex, they just want it to be simple because that's their area of expertise."	Williams2019
		研究のスコープが合わない	the research does not always answer the question exactly, I mean, it is broader or narrower, it looks from another angle, so it does not always answer the question that arises at the moment.	Ellen2016
			Limited quantity of research on topics of importance to them, e.g. economic impact, emerging technologies	Tricco 2016
		研究の外的妥当性の低さ	"very difficult to rely on policy studies from countries that have a completely different health system [...]. So the adaptations we need to make are very complex, which makes the research not always relevant."	Ellen2016
			Research information not valued at community level	Tricco 2016
		実用的な成果・情報の欠如	"[A risk is that researchers were not]...making recommendations in reports that speak to those issues of policy and practice implications, rather than being airy fairy high falutin, more research needs to be in A, B, C. It's not very helpful."	Williams2019
			"if research does not fit with their (policymakers) perception, so they ignore it	Ellen2016
			Systematic reviews do not necessarily frame the existing evidence in terms of their policy applications	Tricco 2016
			Policy decisions are made based on other factors like cost and equity considerations, particularly if evidence base is frail	Tricco 2016
			Policymakers expected content lying outside the scope of a review: recommendations, outcome measurements not usually included in a review, detailed information about local applicability or costs, and a broader framing of the research enquiry	Tricco 2016
	知識・リソース不足	政策立案者が研究の読み方、判断の仕方を知らない	I see the biggest challenge is [policy makers] not knowing how to read and judge research. They don't know: if someone comes up with something that's very politicized, but someone can say anything, right, it's a free country. But [policy makers] don't ask, is it in a peer reviewed journal? Has the result been replicated? Can you tell me where to find that?	Gollust2017
			Policymaker research skills	Oliver 2014
			Policymaker research awareness	Oliver 2014
		政策立案の人材確保	Staff or personnel resources	Oliver 2014
			Staff turnover/continuity of employment	Oliver 2014
			Political instability or high turnover of policy-making staff	Innvaer 2002

	カテゴリ	コード	項目	出典
両者	相互理解の欠如	研究者と政策立案者の相互理解ができていない	Absence of personal contact between policy-makers and researchers	<u>Innvaer 2002</u>
			Mutual mistrust between policy-makers and researchers	<u>Innvaer 2002</u>
			"situation in which a lot of people are working on the same thing in parallel without interaction – there is no communication within the Ministry of Health, outside the Ministry of Health, in the HMOs themselves. And that, I would not say “full gas in neutral” but why do we need to use four cars at the same time if you can put them all in the same car so they can go together? Lack of communication between the relevant parties creates a situation where you are sometimes not aware of the existing policy by the time you are aware of it, you suddenly discover that you are too late. So you say, “I was working on this, I tried to lead something, and in fact it already exists”. Because people forget they have to pass on the information on policies”.	<u>Ellen2016</u>
	外的な要因	タイミング	Timing/opportunity	<u>Oliver 2014</u>
		コスト	Costs	<u>Oliver 2014</u>
		法制度	Legal or legislative support	<u>Oliver 2014</u>
		消費者	Consumer-related barrier	<u>Oliver 2014</u>

表 3. 英語文献のまとめ（促進因子）※整理途中

	カテゴリ	コード	項目	出典
研究者	研究テーマ設定の工夫	情報収集	I read linked articles off of Twitter. So if something grabs my attention that this just published about X, Y, Z topic, I'll go read it. I read off of that more than I do out of my newspapers or anything else	Gollust2017
		現実世界との関連性	"I think it makes the research better...you can check in with the people who are going to be most impacted by the research as you go along. Make sure you don't go off on an academic tangent and lose relevance. Because real-world questions are messy and crowded, and often not exactly as they would be in the perfect academically articulated research questions."	Williams2019
		出口を見据えた研究	"I think if they've got a specific evidence need and know the evidence they need to gather or synthesise to answer it, I think that's quite an acceptable process that will probably lead to really quick translation because they need the evidence and as soon as they get it, they'll make the decision on its basis."	Williams2019
		時流にあった研究	Community pressure or client demand for research	Innvaer 2002
			Timeliness and relevance of the research	Innvaer 2002
			Relevance to policy decisions	Tricco 2016
		政策立案者のニーズを理解	To identify the research evidence needed by a particular group of policy-makers, and/or their needs in relation to how evidence should be communicated or delivered	Verboom2020
		現行の政策の評価	Research that confirms current policy or endorses self-interest	Innvaer 2002
			Inclusion of effectiveness data	Innvaer 2002
		役に立つ情報源になる	...the reason you go to a researcher is that they've got the expertise or the resources or the time or whatever in order to be able to collect that information that you need and therefore that's helpful to you." Policy-maker	Williams2019
	研究成果の伝え方	フォーマットの活用	Format of research findings	Oliver 2014
		明確な提言を含むサマリー	Research that includes a summary with clear recommendations	Innvaer 2002
	政策プロセスへの理解	政策プロセスを理解する	To investigate how political contexts and circumstances, and/or governance arrangements influence evidence use in policy	Verboom2020
			To understand how decisions are made in day-to-day practice in a policy organization, including the role of research evidence	Verboom2020
	研究への信頼性	研究の質	Good quality research	Innvaer 2002
			Coming from credible sources	Tricco 2016
			Reassurance that no reviews have been missed	Tricco 2016
		専門家としての認知	You know, no one's just gonna read someone I've never heard of. Now if you get to be known enough, like if maybe some professional at a university where I live that I know are very knowledgeable . . . there's a credibility there . . . I've seen the track of where they're going and I agree with the thinking.	Gollust2017
	実用性の向上	研究手法の開発	To assess evidence use models against real-world policy-making	Verboom2020
			To demonstrate a novel qualitative method for studying evidence use in policy	Verboom2020
			SRs to provide guidance and suggestions for implementation of findings, not just reporting facts	Tricco 2016

	カテゴリ	コード	項目	出典
政策立案者	研究結果・研究者の活用	新しい発想	"...if the researcher is initiating it...it's more likely to be characterised by sort of something quite new in terms of maybe methods or thinking outside the square."	Williams2019
		専門性の活用	"Investigator driven research is fine, we actually encourage it all the time. That's where ideas come up, where things that we haven't thought of we don't have the capacity to think of everything and have every partner and be at every meeting. So certainly, there's a very important role for investigator driven research."	Williams2019
		エビデンスの活用	To examine the role of evidence in a specific case or cases of policy change or decision-making	Verboom2020
			To examine the usefulness or use of a particular methodological category of evidence (eg, economic evaluations)	Verboom2020
			To assess the impact or use of specific piece(s) of evidence (eg, specific studies) in policy decisions	Verboom2020
		状況に応じたエビデンスの適用	Translating evidence to the local context (including sub groups of patients): individuals frequently had to make independent decisions about how to relate evidence to the needs of their local context, discuss and debate the evidence with local stakeholders and take decisions about its use in practice	Tricco 2016
	研究結果の利用しやすさ	アクセス	Availability and access to research/improved dissemination	Oliver 2014
		エビデンス利用の意向	Most policy makers reported having needed the data and reviews in the past 12 months, having commissioned research or reviews during this period, and having used evidence to contribute to the content of policy	Tricco 2016
			Respondents who expected to use the reviews in the future were more likely to have used a review than those who did not expect to use the reviews	Tricco 2016
		サポート体制	Managerial support (practical)	Oliver 2014
			Professional bodies	Oliver 2014
			Material resources available	Oliver 2014
	知識の向上	研究の方法論に関する理解	Policy-maker perception of types of research (eg, methodological or thematic categories) that are useful	Verboom2020
			To understand the main sources (eg, databases, contacts) through which policy-makers access evidence	Verboom2020
	組織体制	管理職の意向	Managerial will	Oliver 2014
			General perceptions of policy-makers (as well as researchers and other stakeholders) on the use of evidence in policy	Verboom2020
			To understand the organizational-level capacities, capabilities and tools that facilitate the use of research evidence	Verboom2020
	政治体制	政治的なサポート	Political support (will)	Oliver 2014

	カテゴリ	コード	項目	出典
両者	関係性・協働	研究者・情報担当者との関係	Collaboration	Oliver 2014
			Relationship with researchers/info staff/policymakers	Oliver 2014
			Contact with researchers/info staff/policymakers	Oliver 2014
			Personal contact between researchers and decision-makers	Innvaer 2002
		長期的な連携	“...it's a long game, these relationships. Doing the work that they're commissioning but also with a view to potentially collaborating with them on bigger things that we might potentially have an interest in, in the future.”	Williams2019
		エビデンスの共創	“...there is a lot of evidence that is really more implicit, part of the tacit knowledge, part of the [experiential] knowledge that stakeholders have, and that engagement process and coproducing evidence of what works and what does not work is really quite promising. I tell you that in many cases, even systematic reviews... sometimes you might have strong evidence, but it doesn't mean that at the level of implementation in governing contract it would work. This is where the knowledge coproduction piece is important.”	Williams2019
			“I think the agency-led or researcher-led in my experience is common. But we have pursued that co-led idea, because I think that could have so many benefits. We haven't I don't think we've had a lot of success with it, but I think it's a really great model.”	Williams2019
		協力の意思	“I think that, for instance, talking about the deliberations on Healthy Hungary strategy, or how much dialog we had about smoking regulations or about the tasks of health promotion offices, so I believe that beside particular sectoral interests, there is a will for cooperation too.”	Mihalicza2018
		幅広いステークホルダー	Government officials highlighted that a decent inclusive policy development practice was in place in Hungary, because a wide range of stakeholders (including the scientific community) are involved in the review of the planned policy actions through a mandatory-by-law participatory process“...the Decree on public catering was preceded by years of thorough professional preparations; the National Institute for Food and Nutrition Science performed a nutrition survey involving several generations, there have been an extremely widespread professional and civilian consultation and the joint thinking of sectors; in short, this legislation is based on evidence.”	Mihalicza2018
		リスク共有の必要性	“... you do need shared risk. Whether it's financial shared risk, outcome shared risk, reputational shared risk, and that's what kind of drives a lot of things, and sort of shared input in some ways, whether it's in kind, or not in kind, or whatever it is. So, I think shared input, and shared risk, I think, is something that, probably, people might not want to say, but it's very true, because that's where you'll get a lot of input.”	Williams2019
外的要因	ガイドライン ポリシー		Guidelines or policy statement	Oliver 2014
			Importance of policy	Oliver 2014
		agencyの活用	“I feel like the agency's good at identifying the problem and that's often unknown to researcher. They're just not in the trenches. They just kind of can't see it.”	Williams2019

成果②国内文献

【方法】

- ◆ 本研究課題に関連する国内の文献を予備検索し、今後の検索方法を検討した。
- ◆ 本研究課題に関連する書籍、ガイドブック、学会誌などの主要な文献をまとめた。今後、CiNiiによる論文や書籍の検索により、より網羅的な検索方法を検討している。今後の研究全体の方向性などを検討するために、予備検索により特定された文献に関して、以下のように参考資料として整理している。

【結果】

- 現状と課題の把握の過程では、政策立案者側の促進要因として、【政策のための研究の工夫】（対照群の設定）、政策立案者と研究者両者に共通する項目として【モデル事業】（本格的な実施の前に効果検証のためのモデル事業の実施）が挙げられ、阻害要因として、【政策のための研究の障害】（外部妥当性が低い；対照群の設定が困難；活用できるデータの不足；外部性の排除が困難）【エビデンスを「つたえる」】（研究の収集、質の判断の困難さ）の項目が抽出された。解決策として、エビデンスを「つかう」政策立案者や教育関係者に対してわかりやすく「つたえる」機関の設置）が挙げられた。
- 課題設定の過程では、政策立案者側の促進要因として、【適切な課題設定】（社会課題の根本原因の特定；要望と課題の区別）、また阻害要因として、【権力者の都合】（エビデンスよりも権力者の都合が重要視される）、政策立案者、研究者に共通する項目として【エビデンス活用の不十分さ】（創出されたエビデンスが十分に活用されていない）が挙げられた。解決策として、エビデンスの普及や、利活用する努力の必要性について指摘があった。
- 政策立案の過程では、政策立案者側の促進要因として、【適切な政策目標の設定】（SMARTな政策目標設定；政策ありきでない立案）、【受益視点のアウトカム設定】（アウトカムを複数段階に分けて設定）、【ロジックモデルの作成】（緻密なロジックモデル；ロジックを歪める政策目標は設定しない）が抽出され、政策立案者、研究者の両者に共通する要因は【ステークホルダーとの協働】（データ、知見、人材確保のために多様なステークホルダーとの協働）が挙げられた。また阻害要因として、【政策の優先順位】（政策目標の優先順位は人々の価値判断に依存；財源の制約）、【目的の不適切さ】（予算削減のためのEBPM）が抽出された。解決策として、制約をできる限り克服するための効果検証の設計が紹介された。
- 合意形成の過程では、政策立案者、研究者に共通する阻害要因として、【世論の理解不足】（科学的なエビデンスについて世論から理解を得られない）が挙げられた。これに対する解決策として、熟議あるいは丁寧なコミュニケーションを通じてエビデンスと世論との隔たりを埋めていく努力の必要性が述べられた。
- 政策実装の過程では、政策立案者と実装に関わる自治体等の促進要因として、【現場とコミュニケーション；モニタリングによる政策点検】（実行の状況把握；現場とのコミュニケーション；政策の点検）、また阻害要因として、【政策実施のタイミングが不適切】（政策実施が適切なタイミングで実施されなければ効果が小さくなる恐れ）が抽出された。解決策として、政策実施の予告や実施のタイミング、申し込みの締め切りの設定などの十分な検討の必要性が挙げられた。
- 効果検証の過程では、政策立案者側の促進要因として、【効果が上がる政策の見直し】（短い周期で効果検証；政策転換；効果検証の支援制度の利活用）、研究者と共通の促進要因として、【第三者による効果検証】（中立な立場の専門家が行う効果検証）が抽出された。政策立案者側の阻害要因として、【効果的でない効果検証】（効果検証の未実施；改善に繋がらない効果検証；前例踏襲；不十分な政策評価）、【行政の仕組みによる障害】（法定制度の効果検証が困難；年度単位の運

営)が挙げられた。解決策として、厳密な有効性評価と簡便な指標による評価を適切に併用することや、データと現場の声の両方を用いて効果検証することが挙げられた。

表 4. 日本語文献のまとめ ※整理途中

研究者／政策立案者／中間人材 促進要因	阻害要因	解決策
① 現状と課題の把握	<p>【研究者】人材不足</p> <p>【研究者】EBPMによる政策の変革可能性についての認識不足と ロールモデル不足</p> <p>【政策立案者】エビデンスの認知不足</p> <p>【研究者】課題設定と政策立案のためのエビデンスが不一致</p> <p>【研究者】行政ニーズの把握不足</p> <p>【研究者】効果的な発信方法についての知識不足</p> <p>【研究者】基礎データが不足・データベースが散在 (例：コロナ禍の心身の影響を評価したくても、平素の状況の把握 が不十分で困難)</p>	<p>【研究者】EBPMへの貢献を評価されるアカデミアの人事制度</p> <p>基礎データの収集とデータベース整備、オープンデータ化</p>
② 課題設定	<p>【政策立案者】政治家の強い圧力</p> <p>【政策立案者】エビデンスより世論重視の政策立案</p> <p>【政策立案者】行政ニーズの背景の提示が不十分</p>	<p>政策ニーズだけでなく、研究者のニーズもみたせるような課題 の設定（アジェンダセッティングのワークショップ開催など）</p> <p>現場知、専門知がある者の行政官への採用（人事交流の推進）</p>
	<p>【政策立案者】政策担当者による研究者への 十分な説明</p> <p>【中間人材】研究や現場について知識や理解 がある行政官の存在</p>	

(続き) 研究者／政策立案者／中間人材	促進要因	阻害要因	解決策
③ 政策立案	【政策立案者】リーダーシップの強化 【政策立案者】官僚の中立性・専門性 【政策立案者・研究者】政策計画書の公表・保管 【政策立案者】環境変化の条件設定 【政策立案者】受益視点でアウトカム設定 【政策立案者】SMARTな政策目標設定 【政策立案者】政策ありきではない立案 【政策立案者】緻密なロジックモデル 【政策立案者】ロジックを歪める政策目標は設定しない 【政策立案者】ロジックモデル	【政策立案者】政府のパワー・リソースの不足 【政策立案者】政策の優先順位が人々の価値判断に依存 【政策立案者】実行性の不確実性 【政策立案者】予算削減目的のEBPM 【政策立案者】権力者の都合を重視 【政策立案者・研究者】ステークホルダーとの協働 【政策立案者】立案段階での効果検証の未設計 【政策立案者】効果検証の設計に関する人材や、インセンティブの制約 【政策立案者】事前設計 【政策立案者】事前設計なしで政策立案 【政策立案者】効果検証の設計 【政策立案者】測定指標設定	【政策立案者】企画・財務部門の議論 【政策立案者】効果検証の設計 【政策立案者】効果検証の設計 【政策立案者】効果検証の設計
④ 合意形成		【政策立案者（・研究者）】世論の理解を得られない	【政策立案者（・研究者）】世論とコミュニケーション
⑤ 政策実装	【政策立案者】効果的な政策内容の説明 【行政】実行の状況把握 【行政】現場とコミュニケーション 【政策立案者】政策の点検	【政策立案者】政策実施のタイミングが不適切	【政策立案者】政策実施の適切なタイミング
⑥ 受益者へのサービス提供			

(続き) 研究者／政策立案者／中間人材	促進要因	阻害要因	解決策
⑦ 効果検証	<p>【政策立案者・研究者】第三者による効果検証</p> <p>【政策立案者】短い周期で効果検証 【政策立案者】政策見直し 【政策立案者】政策効果を追求するマインドセット 【政策立案者】政策転換 【政策立案者】効果検証の支援制度の利活用</p>	<p>【行政】法定制度の効果検証が困難 【行政】年度単位の運営 【政策立案者・研究者】データ取得のコスト</p> <p>【政策立案者・研究者】第三者への情報開示 【政策立案者】効果検証の未実施 【政策立案者】改善に繋がらない効果検証 【政策立案者】前例踏襲 【政策立案者】政策評価が不十分 【行政】データによる効果検証の不十分さ 【行政】現場の声による効果検証の不確実性</p>	<p>【政策立案者・研究者】マイナンバー等の行政データの活用</p> <p>【政策立案者】有効な政策評価 【行政】データと現場の声</p>
⑧ その他	<p>【政策立案者】制度の整備 【政策立案者】組織への定着 【政策立案者】トップ層の理解</p> <p>【行政】パイロットプログラムの実施 【政策立案者・研究者】マインドセット</p>	<p>【行政】省庁によるエビデンス作り 【行政】職員の分析・評価能力の欠如 【行政】政策の連続性 【行政】縦割り意識</p> <p>【政策立案者】創出されたエビデンスとステークホルダーのニーズの不一致 【政策立案者】新制度構築のコスト</p> <p>【政策立案者・研究者】研究者・政策担当者・市民のコミュニケーション 【政策立案者・研究者】研究者の情報伝達 【政策立案者・研究者】研究者・政策担当者の情報伝達 【政策立案者】行政の無誤謬性 【政策立案者・研究者】確認バイアス</p> <p>【政策立案者】政策の有効性の観点の評価が不十分 【政策立案者】多様化した立場への対応の困難さ 【政策立案者】政策担当者のやりがいの低下</p>	<p>【行政】エビデンスをつくる・つたえる 【行政】職員の分析・評価能力</p> <p>【政策立案者】政策担当者のケイパビリティ 【政策立案者】既存の仕組みの活用 【政策立案者】構成員間で共有</p> <p>【政策立案者・研究者】市民への情報伝達</p> <p>【政策立案者・研究者】研究者の発信方法の工夫</p>

<文献リスト>

Gollust SE et al., Mutual Distrust: Perspectives From Researchers and Policy Makers on the Research to Policy Gap in 2013 and Recommendations for the Future. Inquiry. 2017 Jan 1;54:46958017705465. doi: 10.1177/0046958017705465. PMID: 28452251; PMCID: PMC5798731.

Innvaer S et al., Health policy-makers' perceptions of their use of evidence: a systematic review. J Health Serv Res Policy. Oct;7(4):239-44. 2002

Mihalicza P et al., Qualitative assessment of opportunities and challenges to improve evidence-informed health policy-making in Hungary - an EVIPNet situation analysis pilot. Health Res Policy Syst. 2018 Jun 19;16(1):50. doi: 10.1186/s12961-018-0331-z. PMID: 29914525; PMCID: PMC6006924.

Oliver K et al., A systematic review of barriers to and facilitators of the use of evidence by policymakers. BMC Health Serv Res. 2014 Jan 3;14:2. doi: 10.1186/1472-6963-14-2. PMID: 24383766; PMCID: PMC3909454.

Tricco AC et al., Barriers and facilitators to uptake of systematic reviews by policy makers and health care managers: a scoping review. Implement Sci. 2016 Jan 12;11:4. doi: 10.1186/s13012-016-0370-1. PMID: 26753923; PMCID: PMC4709874.

Verboom B and Baumann A. Mapping the Qualitative Evidence Base on the Use of Research Evidence in Health Policy-Making: A Systematic Review. Int J Health Policy Manag. 2020 Nov 1. doi: 10.34172/ijhpm.2020.201. Epub ahead of print. PMID: 33160295.

Williamson A et al., How are evidence generation partnerships between researchers and policy-makers enacted in practice? A qualitative interview study. Health Res Policy Syst. 2019 Apr 15;17(1):41. doi: 10.1186/s12961-019-0441-2. PMID: 30987644; PMCID: PMC6466802.

梶川 裕矢「科学技術イノベーション政策のための科学 研究開発プログラム」 研究開発プロジェクト事後評価報告書」2020年3月

日本評価研究 「特集：エビデンスに基づく政策立案（EBPM）」の現状と課題 第20巻第2号 2020年7月

大竹らEBPMエビデンスに基づく政策形成の導入と実践

内閣官房行政改革推進本部 EBPMガイドブック Ver1.0 2022年11月7日

当該年度の到達点③ 中間人材の実態・ニーズ把握を行う。

実施項目③-1 中間人材の質的調査

成果：①を踏まえて、より深掘りする調査を設計するため、予定を変更した。中間人材へのヒアリングは2023年10月頃から実施を予定している。

(4) 当該年度の成果の総括・次年度に向けた課題

- 達成目標に対して概ね予定通り進んでいる。当初の予定通り、課題①インタビュー調査の設計、開始をしている。課題②文献の検討は予備調査を実施し、参考資料として特定した文献の整理を実施し、今後のさらなる検索を検討している。

2 - 3. 会議等の活動

年月日	名称	場所	概要
令和4年11月18日	キックオフ全体ミーティング	国立成育医療研究センター政策科学研究部・Zoom利用会議併用	プロジェクトの研究概要および1年目の進め方の説明、文献レビューの進捗報告を行い、担当アドバイザーの先生方からご意見、助言をいただいた。
令和4年10月5日～令和5年3月29日	千先PJ定例ミーティング	国立成育医療研究センター政策科学研究部・Teams利用会議併用	文献レビューおよびEBPM各ステークホルダーへのインタビューの方法の検討、進捗報告、実施結果の共有、振り返り、改善策の提案など、研究開発実施者および協力が者が週1回1時間半ほど（合計21回）活発な議論を重ね、本プロジェクトの推進を図った。
令和5年3月3日	全体ミーティング（JST）	国立成育医療研究センター政策科学研究部・Zoom利用会議併用	プロジェクトの進捗状況を報告し、担当アドバイザーの先生方から文献レビューの実施方法等についてご意見、助言をいただいた。
令和5年3月15日	人材流動に関するミーティング	都内	人材の流動性、官民協働について公共政策研究者と多方面からの議論を行った。

3. 研究開発成果の活用・展開に向けた状況

- 母子保健、成育医療領域の政策担当者や行政経験のある中間人材を研究チームに含み研究実施を共に進めるとともに、勉強会などを通して、成果の実装に向けて検討している。
- センター内講演会、外部シンポジウム、メディアなどで情報発信し、社会実装に向けたさまざまな関係者との関係作りに取り組んでいる。

4. 研究開発実施体制

(1) 中間人材グループ

- ①リーダー：千先園子（国立成育医療研究センターこどもシンクタンク 企画調整室 副室長）
- ②実施項目
 - 1) こども政策におけるEBPMサイクルの全体像と顕在化していない促進・阻害因子を同定するための各ステークホルダーへの質的調査
 - 2) 政策担当者と研究者の間のギャップの認識と両者の連携・コミュニケーションを推進するための情報収集のための文献検索・事例検証
 - 3) 中間人材の実態・ニーズ把握のための質的調査

(2) 研究者グループ

- ①リーダー：竹原健二（国立成育医療研究センター 研究所 政策科学研究部 部長）
- ②実施項目
 - 1) こども政策におけるEBPMサイクルの全体像と顕在化していない促進・阻害因子を同定するための各ステークホルダーへの質的調査
 - 2) 政策担当者と研究者の間のギャップの認識と両者の連携・コミュニケーションを推進するための情報収集のための文献検索・事例検証
 - 3) 中間人材の実態・ニーズ把握のための質的調査

(3) 政策立案者グループ

- ①リーダー：友利久哉（国立成育医療研究センター 戦略企画局 次長）
- ②実施項目
 - 1) こども政策におけるEBPMサイクルの全体像と顕在化していない促進・阻害因子を同定するための各ステークホルダーへの質的調査
 - 2) 政策担当者と研究者の間のギャップの認識と両者の連携・コミュニケーションを推進するための情報収集のための文献検索・事例検証
 - 3) 中間人材の実態・ニーズ把握のための質的調査

5. 研究開発実施者

中間人材グループ（リーダー氏名：千先園子）

氏名	フリガナ	所属機関	所属部署	役職 (身分)
千先園子	センサキノコ	国立成育医療研究センター	こどもシンクタンク 企画調整室	副室長

研究者グループ（リーダー氏名：竹原健二）

氏名	フリガナ	所属機関	所属部署	役職 (身分)
竹原健二	タケハラケンジ	国立成育医療研究センター	研究所 政策科学研究部	部長

政策立案者グループ（リーダー氏名：友利久哉）

氏名	フリガナ	所属機関	所属部署	役職 (身分)
友利久哉	トモリヒサヤ	国立成育医療研究センター	戦略企画局	部長

6. 研究開発成果の発表・発信状況、アウトリーチ活動など

6-1. シンポジウム等

該当なし

6-2. 社会に向けた情報発信状況、アウトリーチ活動など

(1) 書籍、フリーペーパー、DVD

- ・ (タイトル、著者、発行者、発行年月等)

該当なし

(2) ウェブメディアの開設・運営

- ・ (サイト名、URL、立ち上げ年月等)
- ・ (SNSアカウント、URL、立ち上げ年月等)
- ・ (動画タイトル、URL、投稿日時等)

該当なし

- (3) 学会 (6-4.参照) 以外のシンポジウム等への招聘講演実施等
- ・ 「“異次元”の子ども関連施策の推進に向けた課題と展望 (特定非営利活動法人日本医療政策機構(HGPD)主催)」、「緊急提言を踏まえた 成育基本法・成育基本計画の実施と運用に向けた次の打ち手」、2023/4/6、大手町フィナンシャルシティ グランキューブ Global Business Hub Tokyo
 - ・

6-3. 論文発表

- (1) 査読付き (0 件)
- 国内誌 (0 件)
 - 国際誌 (0 件)
- (2) 査読なし (0 件)

6-4. 口頭発表 (国際学会発表及び主要な国内学会発表)

- (1) 招待講演 (国内会議 0 件、国際会議 0 件)
- (2) 口頭発表 (国内会議 0 件、国際会議 0 件)
- (3) ポスター発表 (国内会議 0 件、国際会議 0 件)

6-5. 新聞/TV報道・投稿、受賞等

- (1) 新聞報道・投稿 (0 件)
- (2) 受賞 (0 件)
- (3) その他 (0 件)

6-6. 知財出願

- (1) 国内出願 (0 件)
- (2) 海外出願 (0 件)